



着工前



完成

## 宮北跨線橋地下道に エレベーター新設

宮北跨線橋の耐震補強工事が現在進められています。跨線橋下の東西地下通路がリニューアルされました。

これまで階段の上り下りが困難な方用に設置されていたリフトに代わってエレベーターが新設されました。これにより利用しやすい安心安全な地下道となりました。



当初はリフト更新の計画でしたが、宮北連合自治会の皆様が地元の総意としてエレベーターの新設を求め、何度も役所に足を運ばれるなど積極的な働きかけが実を結び7年越しに実現しました。まちの課題は、そこに住む人たちが一番分かっているはず。住民と行政が一緒になってまちづくりを進めていけばきっと暮らしは向上します。



太田付近地図

太田東地区の住宅地に架かる橋もそのついでした。老朽化により崩落の危険性があるものの管理者であった開発業者は既に存在しません。管理者不明の橋を市が勝手に整備することはできません。財産権の観点

今年も幸多い年でありませうお祈り申し上げます。

コロナ禍の折、先を見通しづらい状況ではありますが、私で何かお役に立てることがございましたら遠慮なくお申し付けください。

地域の課題に問題意識を持って主体的、献身的に取り組まれた太田東自治会役員の方々の姿勢に感服、感心させられたと同時に共に解決に向けて取り組むことができた経験は私にとっても貴重なものになりました。この経験を生かしながら今後も地域の課題に取り組んでいきたいと思っております。



寒中お見舞い申し上げます。皆さまにはそろってよき新年をお迎えのことと存じます。

皆様のご支援で和歌山市議会に送り出して頂き、現在5期目、20年の節目を迎えさせて頂いております。この間、まちづくりに関わる様々な問題と向き合ってきましたが、今期ほど多くの出来事があったことはなかつ

# 「太田東・東橋」の補修工事始まる

## 住民の協力で「私道」から「市道」へ

たのではないのでしょうか。コロナ禍はもちろん、花山水系の漏水問題、そして六十谷水管橋の崩落など私たちの暮らしを直撃する様々な問題が起こりました。

「Withコロナ」「アフターコロナ」と言われるよう今後はコロナウィルスとの共存をいかにしていくか、ということ。老朽化したインフラの補修・整備、まちづくりをどうしていくかを真剣に考えていく時代に突入してきます。

道路や橋など自治体管理の構造物の維持補修は、言うまでもなく所有者である自治体の責任です。一方で、宅地開発などで設けられた私道や橋など構造物の中には開発業者の倒産などによって管理者が曖昧になっているケースがあります。こういった構造物が、いざ老朽化や災害で通行不可能となったとき、誰がどうやって直すのか。救急救命や避難、物資供給等々、初動の遅れにつながる懸念もあります。



鉄骨がむき出し状態になっていた橋

からも課題がありました。

しかし、太田東自治会役員の方々の問題提起とおよそ7年間に及ぶご尽力、そして周辺住民の皆様のご理解・ご協力により橋とその周辺私道を和歌山市が引き取ることになりました。市は「災害時に孤立集落を招くおそれのあるもの、通学路及び市民生活に密着しているもの」について管理ができるよう「引き取り要綱を改定し、「太田東東橋」「太田東西橋」をその第1号として引き取り、一部私道を市道認定するに至りました。両橋のうち損傷が大きかった東橋の補修工事が昨年12月から始まっています。私道だった道路も今後、市が維持管理します。